

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520564

研究課題名(和文)外国にルーツを持つ母親のためのライティング・シラバスの開発

研究課題名(英文)Japanese Writing Syllabus for Mothers from Foreign Countries

研究代表者

内海 由美子(UTSUMI, Yumiko)

山形大学・基盤教育院・教授

研究者番号：20292708

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：日本の幼稚園・保育園は保護者と連携した子育てを目指しており、そのための信頼関係・協力関係を築くうえで連絡帳は重要な役割を果たしている。しかし日本語力が十分ではない外国出身保護者の場合、連絡帳を書くことは大きな負担になっている。そこで本研究では、外国出身保護者が連絡帳を書く際に参照できる日本語使用支援サイト「幼稚園・保育園の連絡帳を書こう！」<http://www.renrakucho.net/> を日本語・英語・中国語・韓国語で作成し2016年3月末に公開した。

研究成果の概要(英文)：The renrakucho notebook plays an important role in facilitating written communication between parents and their child's kindergarten, preschool, nursery school or daycare. It is important to have a good and close relationship with schoolteachers since most of them aim to work together with parents on their child's education. However, it might be burdensome to write in Japanese if a parent is not fluent in the language. In this research, we designed the site 「幼稚園・保育園の連絡帳を書こう! : Writing in renrakucho」<http://www.renrakucho.net/> in Japanese, English, Chinese and Korean to offer a useful guide to how and what to write in a renrakucho and launched it in March 2016.

研究分野：日本語教育

キーワード：外国出身保護者 幼稚園・保育園 連絡帳 やりとり 日本語使用 ライティング 子育て

1. 研究開始当初の背景

アジアからの結婚移住女性の多くは日本語がほとんどできないまま来日する。自然習得により、日常のコミュニケーションに必要な日本語はできるようになるが、読み書きに困難を抱える人は多い(富谷他 2009)。

「外国にルーツを持つ母親のためのライティング・ストラテジーに関する基礎的研究」(挑戦的萌芽研究 H21~23 年度、研究代表者:内海由美子)では、外国出身の母親と日本人の母親を対象に、聞き取り調査と連絡帳(幼稚園・保育園、小学校)の書き言葉データの収集を行った。その結果、日本人の母親が連絡帳に記載した内容には、日常の園生活に関わる連絡、行事や持ち物に関する問い合わせ、子育てに関する相談、挨拶やお礼等の儀礼、園の先生の言動に対する返答の5つがあることがわかった。また、挨拶やお礼を書いたり、子どもの発言や行動を描写して家庭の様子を伝えたりすることで、連絡帳を介して幼稚園・保育園(以下「園」と記す)との信頼関係づくりを行っていることも明らかになった。

外国人の母親の連絡帳には、連絡事項の記入はあったが、挨拶やお礼、先生の言動に対する返答等、信頼関係づくりにつながる記述はほとんど見られなかった。その理由は「書くことが負担、適切に伝える自信がない、間違えて相手を怒らせるのが怖い、子どもに不利になる」等で、母親が外国人であることが気負いや引け目につながっているケースもあった。また、日本人の家族がいなければ園や学校とのやりとりができず、日本語ができないことで子育てへの積極的な関与を阻まれるケースもあった。

一方、小学校に比べ、園の方が、連絡帳がより重要な役割を果たし、外国出身保護者に対する日本語習得支援の必要性が高いことが分かった。

2. 研究の目的

子どもを育てるうえで、園とのやりとりは必要不可欠である。特に、連絡帳やお便り等、書き言葉でのやりとりは、連絡事項の伝達だけでなく、先生との信頼関係を築く上でも重要な役割を持つ(小川 1984)。これは外国出身の保護者にとっても同様である。しかし地域の日本語教室のほとんどでは読み書きの指導は行われていない。

そこで本研究では、日本人の母親と外国出身の園の連絡帳を収集・分析し、連絡帳を介した書き言葉コミュニケーションに必要なライティング・シラバスを開発することで、学習プログラムや教材作成のための基礎資料を整備することを目指した。

3. 研究の方法

日本人保護者、外国出身保護者を対象に、聞き取り調査を行い、音声データを収集し文字化した。そこから、園とのやりとりの全体、

書き言葉のやりとり、やりとりにおける困難を明らかにした。

同時に、園の連絡帳を借り受け、画像データにし、それを文字化した。この書き言葉データをもとに、連絡帳への記述の回数と量、記述の内容について、日本人保護者と外国出身保護者の連絡帳を比較した。また、書き言葉データから、機能とトピックを網羅的に洗い出し、それらの機能とトピックに典型的な記述モデルを作成した。

研究協力者(日本や海外で、外国人の立場で子育ての経験がある人5名、外国人支援に携わる人4名、計6名)を交えて研究会を6回開き、書き言葉データから導き出した記述の機能、トピック、記述モデルに検討を加えて改善し、連絡帳のライティング・シラバスを作成した。

さらに、各モデルを下位の機能に分け、どんな流れで組み立てられているのか、流れと表現を示した。それらを研究協力者が英語、中国語、韓国語に翻訳し、2016年3月、外国出身保護者のための支援サイト「幼稚園・保育園の連絡帳を書こう!」として公開した。
(<http://www.renrakucho.net/>)

4. 研究成果

サイト「幼稚園・保育園の連絡帳を書こう」は、書き言葉のやりとりだけでなく、保護者と園とのやりとり全般に対する支援を目的としており、連絡帳は、対面や電話によるコミュニケーションを含めた、家庭と園とのやりとりの一部であると位置付けている。サイトには、伝えたいことを話すのか書くのかという技能選択のヒントも書かれている。連絡帳に書こうとする場合には、モデルを選んで、流れと表現を確認し、単語や表現を入れ替えて連絡帳に書き写せるようになっている。

日本語中級レベルを主たる対象として想定しているが、初級レベルでも参照できるようにふりがなと翻訳をつけた。言語形式面では、「です・ます」体で、敬語の使用は定型表現以外は避け、初級レベルの文法で書き表せるように配慮した。必要と思われる語彙表現や社会文化面での解説は付したが、文法の説明はない。

サイトは「はじめに」「連絡帳を書こう」「幼稚園・保育園の先生方へ」の3パートから成り、「はじめに」では、話した方がいいこと、連絡帳に書いてもいいこと、書かない方がいいことを示し、名前や印鑑、下線、ひと言から始めるなどのヒントを示すことで、書くことに対する負担感の軽減を目指している。また、園の保育者、保護者仲間、支援者等と関係を築き、聞いたり相談したりできるネットワークを持つことの大切さを強調している。

「連絡帳を書こう(のべ175場面)」は、「1. 連絡する(57場面)」「2. 問い合わせる(19場面)」「3. あいさつする(16場面)」「4. 感想やお礼を述べる(20場面)」「5. 返答する(23場面)」「6. 相談する(20場面+11

場面再掲)」「7.0・1・2 歳児の連絡帳(9 場面6トピック)」「8.表現集(9トピック)」の8章で構成されている。

各場面が、場面の説明、モデル、流れと表現、補足で構成されている。例えば、「5.返答する」の「園の物を借りた場合 - 着替えがなかったので借りた」という場面では、園からの記述「今日、汗をかいたので、昼寝の前に着替えました。着替え袋に長そでしかなかったので、園の半そでTシャツを着ています。吉田」保護者の記述「半そでTシャツ、ありがとうございました。半そでが着替え袋になくて、すみませんでした。佐藤」をモデルとして提示し、流れと表現では、保護者のモデルがお礼、おわび、名前から構成されていることを示し、入れ替え表現を挙げている。サイトの閲覧者は、機能と場面・トピックを選んでモデルを参照し、流れと表現で構成を確認しながら書きたい内容に適した語彙表現に入れ替えて連絡帳に書くことができる。

「6.相談する」など、日本語非母語話者にとってやりとりが難しい場面については、章のはじめに、園の保育者と直接話した方がいいということ、その際はなるべく感情的にならない方が園と冷静な話し合いができること、「子どもの左目の下にひっかき傷があります」等の事実や、「子どもが泣きながら帰ってきました」等の子どもの言動を中心に伝えた方がいいこと等、社会言語面、社会文化面でのやりとりのポイントを説明している。

「幼稚園・保育園の先生方へ」では、来日後間もない保護者、日本語ができない保護者に対する配慮の必要性とポイント、外国人保護者が戸惑う園の習慣や言われて傷つくひと言を紹介した。また、外国人保護者の「話そう」「書こう」とする姿勢を認め、反応を示すことの大切さを記した。周りの理解と共感が、外国人保護者の日本語使用には大きな助けになるからである。

今後はこのサイトの周知を図り、利用者増を目指すとともに、利用者から寄せられる意見・感想・質問をもとに、サイトを内容面、技術面において改善していく。

<引用文献>

小川まみ、保育園児はどう育つか、ひとつなる書房、1984

富谷玲子、内海由美子、斉藤祐美、結婚移住女性の言語生活 自然習得による日本語能力の実態分析、多言語多文化 実践と研究、2号、2009、116-137

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

内海由美子、澤恩嬉、外国人の母親に対

する読み書き能力支援としてのエンパワメント、日本語教育、査読無、155、2013、pp.51-65

〔学会発表〕(計3件)

内海由美子、澤恩嬉、薄井宏美、外国出身保護者と幼稚園・保育園とのやりとりに対する支援の試み、異文化間教育学会第37回大会、2016年6月4日~5日、桜美林大学

内海由美子、澤恩嬉、薄井宏美、「幼稚園・保育園の連絡帳を書こう!」-外国出身保護者のための支援サイトの開発、日本語教育学会春季大会、2016年5月21日~22日、目白大学

内海由美子、富谷玲子、仁科浩美、外国にルーツを持つ母親と幼稚園・保育園との書き言葉コミュニケーションについて、日本語教育国際研究大会、2012年8月17日~20日、名古屋大学

〔図書〕(計1件)

UTSUMI, Yumiko, Japanese Language Support for Female Marriage Immigrants to Yamagata Prefecture: A Diachronic Survey, M. IRWIN and M. Zisk ed. "Japanese Sociohistorical Linguistics", 2016, Mouton de Gruyter, Berlin, ページ数未定

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

外国出身保護者のための支援サイト「幼稚園・保育園の連絡帳を書こう!」

<http://www.renrakuchou.net/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

内海 由美子 (UTSUMI, Yumiko)

山形大学・基盤教育院・教授

研究者番号：20292708

(2)研究分担者

澤 恩嬉 (SAWA, Eunhee)

東北文教大学短期大学部・総合文化学科・准教授

研究者番号：50379699

富谷 玲子 (TOMIYA, Reiko)

神奈川大学・外国語学部・准教授

研究者番号：40386818

(3)連携研究者

仁科 浩美 (NISHINA Hiromi)
山形大学・工学部・准教授
研究者番号：10431644

薄井 宏美 (USUI Hiromi)
山形大学・基盤教育院・非常勤講師
研究者番号：30646170

(4)研究協力者

長藤 節子 (NAGAFUJI Setsuko)
渡辺 敏 (WATANABE Toshi)
五十嵐 貞心 (IGARASHI Jeong sim)
鈴木 美羅 (SUZUKI Mira)
アーウィン香織 (IRWIN Kaori)
リサ・ソマーズ (SOMERS Lisa)